

生徒の意識改革により学力の向上を図る取組の実践例

～4年間の全国調査で正答率が向上している中学校の例～

学校紹介

| | | | |
|------------|------------------|--|----------------|
| 学校種 | 中学校（昭和41年開校） | | |
| 校区内小学校 | 2校 | | |
| 学級数 生徒数 | 計10学級 (約310名) | 第1学年 3学級（約100名） 第2学年 3学級（約100名） 第3学年 3学級（約100名） 特別支援学級1学級（5名） | |
| 教職員数 | 31名 | 校長・教頭 | 各1名 |
| | | 教諭 | 19名（うち、養護教諭1名） |
| | | 事務職員・用務員 | 各1名 |
| | | 指導助手・支援員 | 4名 |
| | | 相談員・SC | 各1名 |
| | | ALT 図書司書 | 1名 1名 |

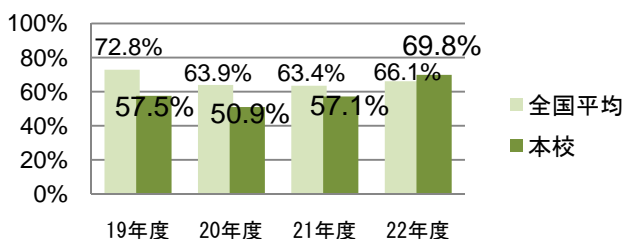
○学校の特徴

本校の学区は、古くから水運の拠点として農業と工業が一体化して発展してきた町にあり、地域も学校も活気にあふれている。

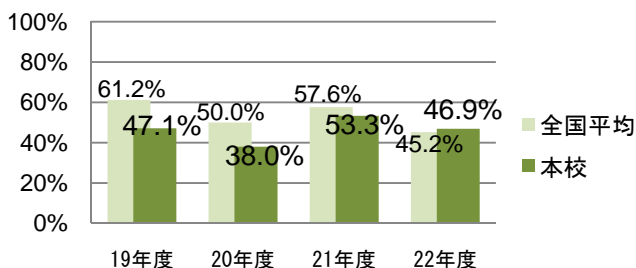
本校では、地域の清掃活動を行ったり、生徒会活動の一部として特別養護老人ホームでのボランティア活動を行ったりするなどの、地域に根差した教育活動を展開している。

全国学力・学習状況調査の結果における特徴

数学Aに係る正答率



数学Bに係る正答率



本校は、平成19年度全国調査において国語・数学ともに全国平均を下回る結果であった。

そこで、質問紙調査の結果分析から、学習意欲を高め、家庭学習を含めた学習習慣を定着させるなど、生徒の意識改革に努めた。

また、知識・技能を活用する力を伸ばすためには、生徒が理解や考えを共有することが必要と考え、学び合いや発表の場を積極的に取り入れるなどの授業改善を行った。

左のグラフは数学の例であるが、4年間の全国調査の結果を比較すると、正答率が向上しており、これらの取組を継続して行ってきた成果と考えている。

授業における取組

生徒の実態把握と意識改革

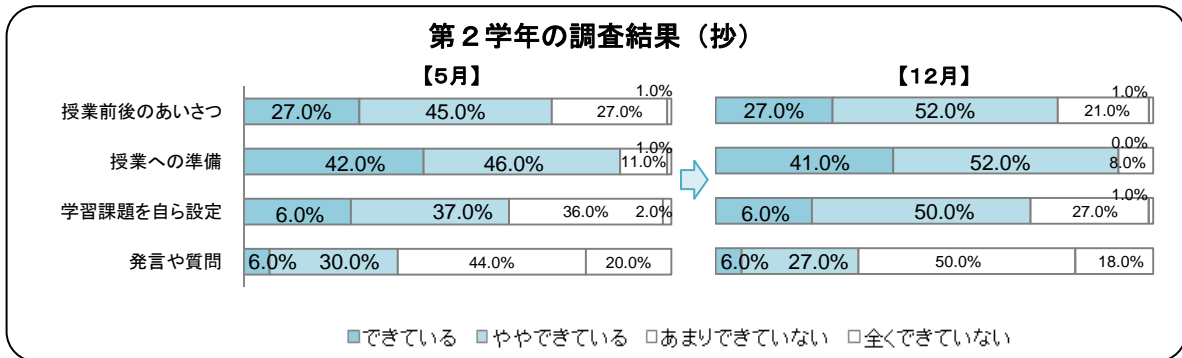
正答率が全国平均を大きく下回った平成19年度全国調査においては、生徒質問紙の学習意欲に関連する項目の結果も全国平均を下回っていた。学力向上のためには、まず学習意欲の向上が不可欠と考え、本校では学習に対する生徒の意識改革に力を入れてきた。

○生徒の学習意欲の実態調査

生徒の学習意欲の実態を把握するため、平成20年度から、全国調査のほかに本校独自の「学習意欲に関する調査」を実施し、授業改善の参考としている。この調査は、5月と12月に同じ項目で実施するもので、生徒の意識改革や学習習慣の定着がどの程度進んでいるかを分析している。

下のグラフは、平成20年度の調査結果の一部である。

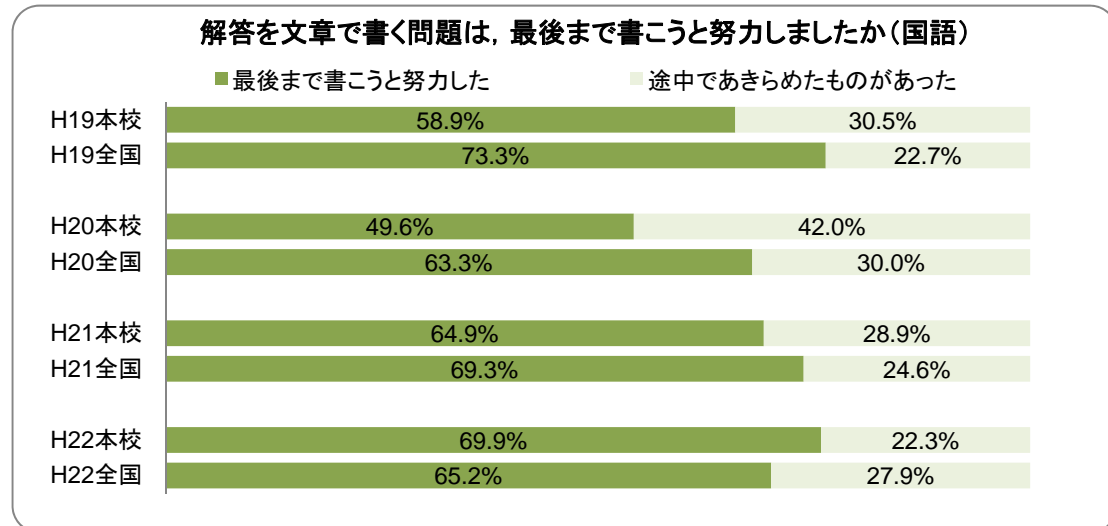
5月に比べ、12月には「①授業前後のあいさつ」や「②授業への準備」といった基本的な習慣が定着し、また、「③自主学習の課題を自ら設定」することもできるようになってきている。しかし、「④発言や質問への積極性」ということに関しては、依然として課題であることから、この点に焦点を当てた職員研修会を行い、授業の改善を図った。



○学習意欲を高める

本校では、学習意欲を高める際に「授業のねらいを最後まで達成しようとする態度」の育成を最も重視しており、授業や単元のねらいを明確に伝えるとともに、「わかった」「できた」という達成感を得られる授業となるよう努めている。（後述）

これまでの取組により、例えば、全国調査の記述式問題を最後まで努力した生徒の割合は、以下のように向上してきている。



学習習慣の定着

○学習習慣の前提となる基本的な事柄の実践

本校では、学習習慣を定着させるためには、学習道具の準備の確認や授業に向かう際のマナーの遵守など、基本的な事柄の実践が必要と考え、学年ごとの実践計画を作成し、その徹底に努めている。実践計画は、生徒が理解しやすいよう具体的な内容を提示し、実施すべき時期や学期ごとの重点課題を設定している。

| 具体的な実践内容 | 重点実施時期 |
|--------------------------------|--------|
| 名前を呼ばれたら「はい」と元よく返事をする。 | 一学期 |
| 始業前に授業で使うものを机に出す。 | 一学期 |
| 聞き手に聞こえるように、質問に答えたり発言したりする。 | 通年 |
| 友人の発言や発表に、うなづいたり相槌を打つなどの反応をする。 | 通年 |
| 家庭で毎日計画的に机に向かう。 | 通年 |

▲第一学年のための実践計画の一部

また、生徒たちが互いに刺激を得つつ、自分なりの学習習慣を確立できるよう、生徒の実践の中から、ノートのとり方や学習方法の好例を取り上げ、学級通信などで紹介している。右の例では、事柄だけでなく、資料集などから写真やイラストなどを添えてまとめている。

本校では、これらを教科担任だけでなく、学級担任も行うことで、教科を超えた立場から学習習慣の定着を支援している。



▲社会科のノートの例

○家庭における自主的な学習を促す手だて

家庭における学習習慣を定着させるため、生徒には、各教科のノートとは別に「自主学習ノート」をもたせている。その上で、毎日このノートを用いて、その日の授業を振り返って自ら課題を設定し、1ページ以上取り組んでくるよう指示している。

このノートについては、毎日クラスごと、個人ごとにチェックを行い、努力している状況を数値で確認できるようグラフにすることで、学習意欲を高めている。

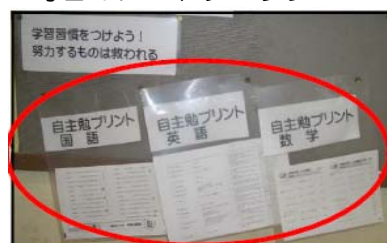
なお、自分で適当な課題を設定できない場合に備え、各教科で自主学習用のプリントを用意しておき、自由に活用できるようにしている。



▲毎日のノートチェック

| 学年 | 基本的な取り組みせ方 | チェック方法 |
|----|--|------------------------------|
| 1年 | ・国語（漢字を中心）と英語（単語を中心）は必ず1ページ練習する。 ・その他は各自が課題を設定する。 | ・担任が内容のチェック ・学習係が提出をチェック |
| 2年 | ・5教科を中心に各自が内容を考え学習する。 ・何をしたらよいか分からない場合は、単元の課題プリントを活用する。 | ・教科担任がチェック ・担任が提出チェックをし返却 |
| 3年 | ・全ての教科について、各自で課題を設定して取り組む。 ・学習の悩みや進路の悩みなどを記入することも可能とし、担任や学級担任との連絡帳の役目も担う。 | ・担任、副担任がチェックし、コメントを記入 |

▲自主学習ノートの活用方法



▲自主学習プリント

学習習慣の定着（つづき）

○「学習の手引」の配布

教科・学年ごとに、教科目標、1年間の学習内容の概略、予習・復習などの日常的な学習方法を示した「学習の手引」を作成している。これを生徒に配布し、常に手元に置かせることで、生徒が自主的に学習する際の支援となるようにしている。

国語

I 目標

話す・聞く、書く、読むことの学習を通して、ものの見方や考え方を深め、相手を意識し、目的や場に応じた表現が適切にできるようにする。

II 学習の内容 ～国語の4本柱～

- 話す・聞く …スピーチ、グループ・ディスカッション、発表など、自分の意見や思いを音声で伝え、聞き取る力をつける。
- 書く …記録、紹介文、手紙、意見文など、内容を整理し、相手にわかりやすくまとめる力をつける。
- 読む …説明文、小説、古典、随筆、韻文（詩・短歌・俳句）を読み、文字によって表された考え方や心情を読み取る力をつける。
- 言葉に関すること …文法や漢字、慣用語、ことわざ、表現技法に関する知識を身につけ、上の三つ言語活動に役立てる。

III 学習のしかた

- ① 授業中
 - *大きな声ではっきりと音読する。
 - *自分の意見（感想・考え）をもち、表現する。
 - *先生の話や友達の見解をしっかりと聞き、理解する。
- ② 家庭学習
 - *漢字練習・語句の意味調べ・教科書の音読・文法などは練習問題を繰り返す。
 - *国語に関する基礎知識をノートにまとめる。
 - *新聞や本をたくさん読む。



数学

I 目標

- ① 計算や図形などに関する基礎的な原理や法則を理解し、使えるようにする。
- ② 見通しをもって論理的に（筋道を立てて）考える力を養う。

II 学習の内容

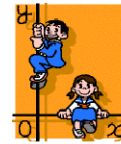
算数が数学という名前が変わるくらいだから、中学校の数学は小学校と違って非常に難しくなるのではないかと心配している人が多くいますが、そんなに不安がる必要はありません。

- ① 数学では、文字を使用する……文字と式、1次方程式
 - 文字を使うと……
 - ・考え方が合理的になる。
 - ・計算が機械的（簡単）になる。
- ② 数が拡張され、新しい数が出てくる……負の数、無理数（ルート）
- ③ 筋道を立てて考えることが求められる……文章題や証明を撃破しよう！



III 学習のしかた

- ① 授業中は、間違いをおそれずに自分自身で考え、自分の考え方を積極的に発表する。
教室は、間違えるところである。間違えることを通して、理解が深まる。
- ② 単に答えを求めただけでなく、なぜそのようになるのかという疑問や、もっとほかの解き方はないのかという探求心を大切にす。
- ③ 家に帰ったら、必ずノートを開いて授業内容を確認しておく。授業で解いた問題などをもう一度、やり直して、理解できているか確認してみる。
わからなかったらもう一度、ノートや教科書を見てやりかたを確認しておく。それでもわからないところは、翌日先生や友達に聞いて理解するようにしよう。



生徒の意識を変える授業改善：導入部分の工夫

○単元や授業の目標の明確化

主体的に授業に参加する態度を育成するためには、授業に先立ち、単元・授業の目標や、前時の学習内容との関連を理解させることが重要である。そこで、授業の冒頭に、それらを明示するための時間を確保している。授業の冒頭であることにちなんでこの時間を「あさひタイム」と通称し、すべての教科を通じて必ず設定することにより、この時間のねらいが生徒にも伝わるようにしている。

【国語科 第3学年】 単元名：豊かな言葉「俳句の可能性」

あさひタイム

- ・ 「負けないぞ 額をぬぐう 夏の汗」の句を黒板に提示し、この句を読んで各自が思い描いた情景や、作者の思いを自由にノートに書かせる。
- ・ 数人に発表させ、生徒により内容が少しずつ異なることに気付かせることで「語句のもつイメージの広がり」に気づき、俳句に関して関心を深める」という本時の目標を理解させる。

<展開>

- ・ グループ内で順に発表させ、俳句の解釈には読む人の体験が生きてくることや、自分の思いが広がっていくことの楽しさを感じさせる。
- ・ 黒板に提示された、季語、有季定型など俳句に関するキーワードから、さらに自分の考えを広げていく。
- ・ その後クラス全体で、散文との違いである、「省略されている部分の情景や作者の気持ちを想像すること」の面白さなどを確認する。

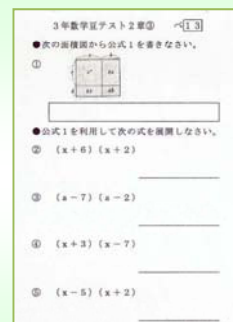
生徒の意識を変える授業改善：導入部分の工夫（つづき）

【数学科 第3学年】 単元名：多項式の乗法

あさひタイム

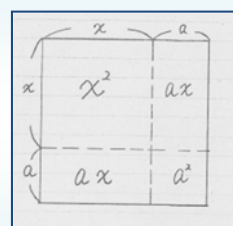
- ・ 前時の学習内容である乗法公式と図の関係について、黒板に図を示しながら復習した後、小テストを行う。
- ・ 小テストの問題について、隣同士でペアになり、交互に図を使って解説させ、答え合わせをさせる。
- ・ 本時の学習でも、乗法公式と図の関係を活用することを伝える。

数学科小テスト▶



<展開>

- ・ 黒板に $(x + a)^2$ の式を提示し、各自に展開した式と図を考えさせ、ノートに記入させる。
- ・ ペアをつくらせ、大小2つの正方形がどの文字を表すのか、合同な2つの長方形がどの文字を意味するのかを互いに説明させる。
- ・ ペアで相談させ、和の平方の公式を導かせる。



【英語科 第3学年】 単元名：An American Rakugo-ka

あさひタイム

前時に学習した It is ~ for me to ... の構文を用いて、自由な発想で文を作らせ、グループ内で発表させる。

グループ内で面白い内容の文を1つ選ばせ、クラス全体で発表させることで、知識を創造的に活用することの面白さ、大切さに気付かせる。

<展開>

教科書本文のモデルリーディングを聞かせ、アウトラインをつかませるとともに、It is ~ for me to ... の文がどのように使われていたか確認する。

教室からの声

- ・ 数学のあさひタイムにやる小テストで、前の時間でやったことを確認できて、次にそれを生かすことができた。
- ・ あさひタイムの小テストで、自主学習にも積極的に取り組めるようになった。
- ・ 国語のあさひタイムでは、毎回いろいろな「お題」が出されて、短い時間で自分の意見を書いたり、感想を書いたりするので、文を書くのに慣れてきた。
- ・ 保健体育のあさひタイムでは、毎日の食事のことなどを考えたので、給食の栄養バランスについても考えるようになった。

生徒の意識を変える授業改善：学び合いのある授業展開

○学び合いを通じた理解や考えの共有

これまでに述べた取組によって、徐々に基礎的・基本的な知識・技能が定着してきており、「わかった」「できた」と感じる生徒が着実に増えてきた。本校では、そのような生徒の理解や考えを互いに共有させ、共通点や相違点に気付かせることが、思考力・判断力・表現力等の育成につながると考え、学び合いのある授業を展開している。例えば、数学科では、全国調査の生徒質問紙調査において、「授業の内容はよく分かる」、「大体分かる」と答えた生徒の割合が、平成19年度の57%から、平成22年度は79%となっており、これらの成果と考えている。

【数学科 第1学年】 単元名：空間図形

数学科では、図形を観察して性質を理解する場面や、考察を加えて分類する場面など、様々な場面で学び合いの活動を取り入れている。

空間図形の概念の形成：

- ① 各自に身の周りの様々な立体を持ち寄せ、グループ内で観察させる。
- ② グループ内で相談させ、それらの立体を分類させる。
- ③ 各グループに、どのような特徴に注目して分類したのかを報告させ、生徒の気づきを生かし、多面体の導入を行う。



立体によって、頂点の数が違うね。

接する面の数が違う頂点をもつ立体があったよ



様々な多面体の性質を観察：

- ① グループごとに幾つかの多面体を選択させ、工作用紙を利用して、模型をつくらせる。(正四面体、三角錐、立方体 など)
- ② 作成中あるいは作成後の気づきや発見を発表させる。

正多面体の存在を理解：

- ① 立方体と直方体、正四角^{すい}錐と正四面体を手の上で転がし、見え方の変わるものとそうでないものがあることに気付かせる。
- ② その理由について、グループ内で意見交流させ、全体で発表させる。
- ③ 各自ノートに正多面体の図を書かせ、性質についてまとめさせる。



回転



回転



* 平面を観察する際には球、立方体を観察する際には直方体、正四面体を観察する際には正四角錐、というように、異なる図形と対比させ、様々な角度から生徒の気づきを促し、空間図形についての概念を徐々に形成していく。

* 正多面体についての小単元のまとめには、次のような課題を与える。



▲模型を示して解説

正多面体の種類を考察：

- ① 次の課題を与え、模型をつくらせながら、グループで考察させる。
(課題) 正多面体はなぜ5種類しかないのだろうか。
- ② ある程度考察させた後、ヒントを与え、グループごとに考えをまとめさせる。
(ヒント) ア. どの面もすべて合同な正多角形である。
イ. どの頂点にも面が同じ数だけ集まっている。

家庭学習の定着と指導力の向上

○家庭学習の充実

生徒たちは、5月に自分の家庭学習の取組状況を振り返り、「家での過ごし方プラン」を作成し、家庭における学習の充実を図る。2学期に再度自分の取組状況を見直し、「家での過ごし方改善プラン」を作成する。

この取組のねらいは、各自が自分の取組状況に合わせた適切な学習プランを立てるのみならず、自分自身の学習を定期的に振り返り、常に改善していこうとする姿勢をもたせることである。また、プランに保護者のメッセージ欄を設けることで、保護者に生徒の家庭学習への取組計画を理解してもらうとともに、家庭学習の必要性について認識を深めてもらうことを目指している。

家での過ごし方プラン

★家に帰ってからの過ごし方を確認しよう! (平日用)

| | 17:00 | 18:00 | 19:00 | 20:00 | 21:00 | 22:00 | 23:00 |
|------|-------|----------|----------|-------|-------|-------|-------|
| 月 部活 | | 自由: コーヒー | 勉強や明日の勉強 | いじめる | お風呂 | | 就寝 |
| 火 部活 | | 自由: コーヒー | 勉強 | | お風呂 | 明日の勉強 | |
| 水 部活 | | 自由: コーヒー | 勉強や明日の勉強 | いじめる | お風呂 | | 就寝 |
| 木 部活 | | 自由: コーヒー | 勉強 | | お風呂 | 明日の勉強 | |
| 金 部活 | | 自由: コーヒー | 勉強や明日の勉強 | いじめる | お風呂 | | 就寝 |

平日の過ごし方についての感想:
・勉強や明日の勉強を早く始めることにしました。

過ごし方で改善できるところ:
・お風呂の時間をもう少し早くする。

保護者からの一言: 先に宿題や勉強を終わらせて遊ぶようにしようね。

家での過ごし方改善プラン

★家に帰ってからの過ごし方をもう一度確認しよう! (平日用)

| | 17:00 | 18:00 | 19:00 | 20:00 | 21:00 | 22:00 | 23:00 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 月 部活 | | | 明日の勉強 | 勉強 | お風呂 | | 就寝 |
| 火 部活 | | | 明日の勉強 | 勉強 | お風呂 | | 就寝 |
| 水 部活 | | | 明日の勉強 | 勉強 | お風呂 | | 就寝 |
| 木 部活 | | | 明日の勉強 | 勉強 | お風呂 | | 就寝 |
| 金 部活 | | | 明日の勉強 | 勉強 | お風呂 | | 就寝 |

5月に決めた改善点:
・お風呂の時間を早くする。

改めて改善するところ:
・このプランの10月10日に3月分の準備をする。
・勉強時間を30分にする。

保護者からの一言: このプラン通りに頑張れるといいね。

○指導力向上のための取組

教員研修では、「意欲的に学習に取り組む生徒の育成」をテーマとし、学び合いを取り入れた授業の工夫や学習習慣を定着させる指導の工夫に取り組んでいる。全教職員で取り組むという意識を高めるとともに、教員も相互に研究を深め指導改善を進めるために、次の3つの取組を行っている。

1人1授業公開

教科を超えて教員同士が学び合い、指導力を向上させるため、授業を公開する日を設けて、相互に授業参観を行っている。

授業公開は、前述の共通テーマに基づき、すべての教員が年に1~2回行う。

授業者は、参観の視点や、意見をもらいたい活動場面などを事前に伝えておく。

研究授業

前・後期各2回程度、代表者による研究授業を行う。研究授業には外部講師を招聘し、授業後に、指導法や評価法についての協議会を行う。

個人発表

研究授業を行った代表者を除く全教員で、月1~2名のペースで、授業実践発表を行う。

